

寺尾寿のノートと稀覯書

渡部 隆夫¹・六車 彩都子²

〈大阪大学大学院理学研究科数学専攻 〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-1〉

e-mail: ¹twatanabe@math.sci.osaka-u.ac.jp, ²library@math.sci.osaka-u.ac.jp

東京天文台（現・国立天文台）の初代台長であった寺尾寿の資料は、国立天文台三鷹図書室にある寺尾文庫と九州大学附属図書館にある音無文庫にまとめられているが、寺尾の専門であった数学・天文学に関する資料は、太平洋戦争時における戦災で焼失したと考えられてきた。今回、大阪大学理学研究科数学図書室所蔵の貴重書の中に、寺尾の数学・天文学に関する1次資料の現存が確認されたので、その内容を報告する。

1. はじめに

東京天文台（現・国立天文台）の初代台長であった寺尾寿の名は、天文月報の読者の多くの方が知っておられると思う。寺尾寿（1855-1923）は明治期の数学者・天文学者であり、1878年に東京大学理学部物理学科を卒業後、1879年からパリ大学・パリ天文台に留学しフランソワ フェリックス ティスラン（François Félix Tisserand）に師事した。1883年帰国後に、東京大学理学部数学科の講師になっている（[1], p. 70）。翌年、1884年に東京大学理学部星学科教授となり、1888年から東京天文台の初代台長を兼任した。東京物理学講習所（現・東京理科大学）の創立メンバーの一人としても知られている。寺尾寿についての伝記や評伝は著されていないようであるが、東京大学入学以前に受けた教育とパリ留学時代の事跡については [2] に詳しく紹介されている。

寺尾に関する資料は、国立天文台三鷹図書室にある寺尾文庫と九州大学附属図書館にある音無文庫にまとめられている。寺尾文庫には写真等15点の資料目録があり、音無文庫には寺尾の国語学・国文学関係の蔵書が所蔵されているが、寺尾の専門であった数学・天文学に関する資料は、太平洋戦

争時における戦災で焼失したと考えられてきた [2]。今回、大阪大学理学研究科数学図書室所蔵の貴重書の中に、寺尾の数学・天文学に関する1次資料の現存が確認されたので、その内容を報告する。

2. 大阪帝国大学理学部数学科について

確認された資料は、1933年（昭和8年）に大阪帝国大学附属図書館が購入したものである。大阪帝国大学は、その2年前の1931年に公立大阪医科大学と塩見理化学研究所を母体に、医学部と新設の理学部からなる総合大学として創設された。初代総長は長岡半太郎であった。塩見理化学研究所は、大阪亜鉛鉱業株式会社の専務取締役であった塩見政次の私財をもとに1917年に設立された民間の研究所であり、発足当初は理学科（物理学、理論物理学、数学）と化学科（生物化学、純正化学）からなっていた。研究所は大学創設後も残り、1956年（昭和31年）に解散している [3]。理学部数学科は、1932年に数学第一講座が設置され、清水辰二郎が教授として最初に赴任した [4]。その後、段階的に講座数が増え、1933年前後の数学科の教授と助教授は、清水辰次郎、正田建次郎、三村征雄、南雲道夫、吉田耕作である。そのほか

に講師と助手・助手が数名在職していた [5]. 第5章で述べる小倉金之助は講師であったが、塩見理化学研究所の所長を兼ねていた.

3. 図書原簿の記録

大阪大学附属図書館に残されている1933年の図書原簿によれば、附属図書館は1933年11月22日に登録番号28038から28120を附された図書83冊を受入れしている. この図書原簿の記載によれば、28038から28060までの番号を附された各書物の著者・書名・発行年は表1のとおりである. 28048はラテン語で印刷されたニュートンのプリンキピア・マテマティカである. この1冊を除けば、他はすべてフランス語の書物で、28055-56, 28057-58と28059-60は2巻本である. 次いで登録番号28061から28120については、ひとまどめに

28061-120 Hisashi, Terao., Cahiers de notes sur les sciences mathématiques.

とあり、出版年の記載はなく、出版地 Paris, 冊

数60と記録されている.

これら83冊は、すべて東京の古書店主である北澤彌三郎から納入された書籍であることが図書原簿に記載されていた. 北澤彌三郎は神田神保町の古書店北沢書店の創業者であり、1902年創業時、大学図書館や研究室への納本を中心に営業をしていたようである. 北沢書店に83冊納入時の記録がないかを問い合わせたところ、戦前の記録は残っていないとのことであった. 購入者は1933年当時の数学科教官であると考えるのが自然であるが、購入者並びに購入の経緯は不明のままである.

4. 寺尾ノートの概要

この章では、割り当てられた登録番号をそのまま使い該当の本とノートを示すことにする. 現在数学図書室には、

- (1) 登録番号28038から28060の中で28044と28054を除いた21冊の本
- (2) 登録番号28061, 28067, 28086, 28087, 28088, 28095, 28109, 28110, 28113の9冊のノート

表1 28038から28060までの著者・書名・発行年.

登録番号	著者	書名	発行年
28038	Houël,	Cours de calcul infinitésimal. t.4.	1881
28039	Hermite	Cours professé à la faculté des Sciences pendant le 2ème Semestre 1881-1882.	1882
28040	Tisserand	Traité de mécanique céleste. t.1.	1889
28041	Tisserand	Recueil complémentaire d'exercices sur le calcul infinitésimal.	1877
28042	Bertrand	Traité de calcul différentiel et de calcul intégral.	1870
28043	Rebière	Mathématiques et mathématiciens. Pensées et curiosités.	1889
28044	Poinsot	Eléments de statique. 2.éd.	1877
28045	Briot et Bouquet	Leçons de trigonométrie. 7. éd.	1877
28046	Briot et Bouquet	Théorie des fonctions elliptiques. 2.éd.	1875
28047	Clairaut	Théorie de la figure de la terre, tiès des principes de l'hydrostatique.	1743
28048	Newtono	Philosophiae naturalis principia mathematica. v.1.	1833
28049	Lacroix	Traité élémentaire de calcul différentiel et de calcul intégral. 3.éd.	1820
28050	Lacroix	Traité élémentaire du calcul des probabilités. 4.éd.	1864
28051	Lagrange	Théorie des fonctions analytiques. nouv. éd.	1813
28052	Laurent	Théorie des résidus.	1865
28053	Laplace	Exposition du système du monde. 6.éd.	1835
28054	Mathieu	Dynamique analytique.	1878
28055-56	Lagrange	Mécanique analytiques. nouv. éd.	1811-85
28057-58	Halphen	Traité des fonctions elliptiques et de leurs applications.	1886-88
28059-60	Laplace	Traité de mécanique céleste.	1802

の合計30冊が現存している。

(1)の21冊中、2冊(登録番号28045と28046)を除く19冊には寺尾壽蔵書の蔵書印が押印されている。(著名人の蔵書印は、国文学研究資料館蔵書印データベースに画像が登録されており、寺尾の蔵書印は、音無文庫から撮られた印影がデータベースにある [6].) 図1は登録番号28048が付き

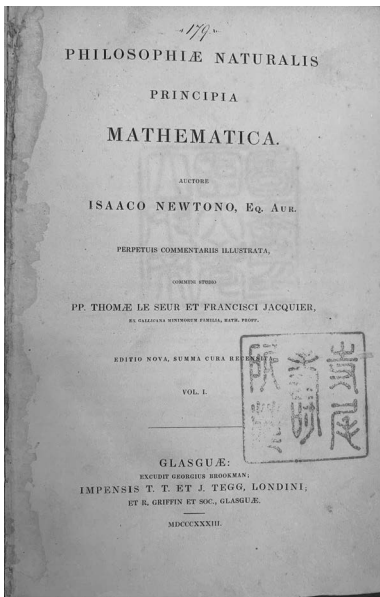


図1 ニュートンのプリンキピア・マテマティカ。

れたニュートンの本で、印影は寺尾の蔵書印である。登録番号28045には蔵書印はないが、寺尾の丸い朱印が押されている。また、登録番号28040のティスランの著作には、蔵書印と丸い朱印の両方が押されている。

(2)の9冊はすべて手書きノートであり、大部分が几帳面なフランス語筆記体で書かれている。9冊のノートについて、その内容までは立ち入ることはできないが、外観等について何点かの写真とともに紹介する。

28061は、A4大のハードカバー120ページのノートである。96ページまではフランス語筆記体で書かれている(図2)。98ページの最初に菊池幾何学小教科書とあり(図3)、以降は初等幾何学の練習問題解答と思われる図と式が120ページまで続く。まとまった日本語の記述があるのは、このノートだけである。

28067は、A5大のハードカバー100ページくらいの赤い表紙のノートで、講演や授業を聴講したときのノートのように見受けられる。最初のページ右上に日付と思われる29 Nov. 1880の書き込みがある。

28086, 87, 88, 95の4冊は、すべてA5大のハードカバー100ページくらいのノートで、背表紙には順に、物理学二、物理学三、物理学四、物理学

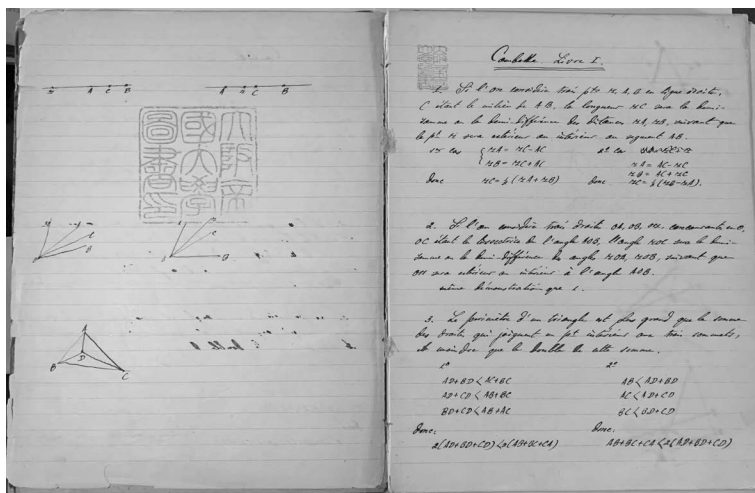


図2 28061の第1ページ。

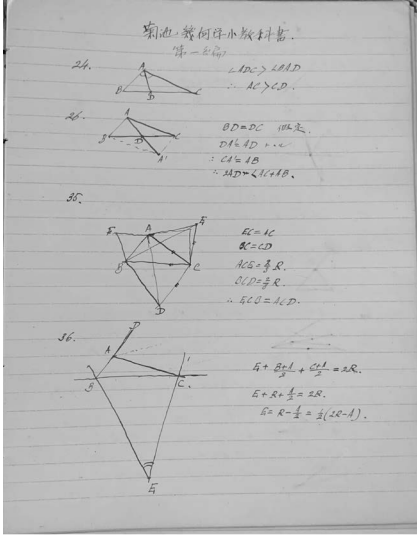


図3 28061の第98ページ.

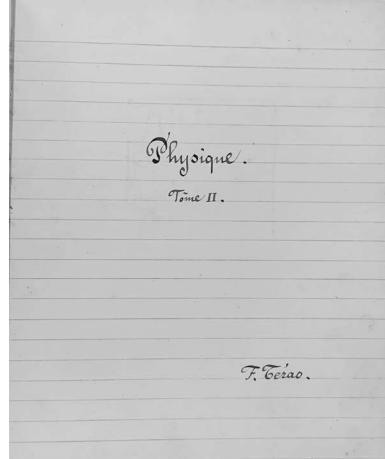


図5 28086の第1ページ.

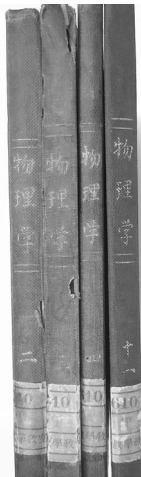


図4 28086, 87, 88, 95の背表紙.

十一と書かれている (図4). 28086の最初のページにはF. Teraoの記名がある (図5).

28109と28110は、元は1冊のノートであったと思われる。横はほぼA4で縦はA4より5 cmくらい長い。各用紙の表面にだけ手書きでページ番号が書かれており、316ページまでである。裏面は何も書かれていない白紙が多い。1ページから94ページまでが28109で、95ページから316ページまでが28110と番号登録印が押してある (図6)。

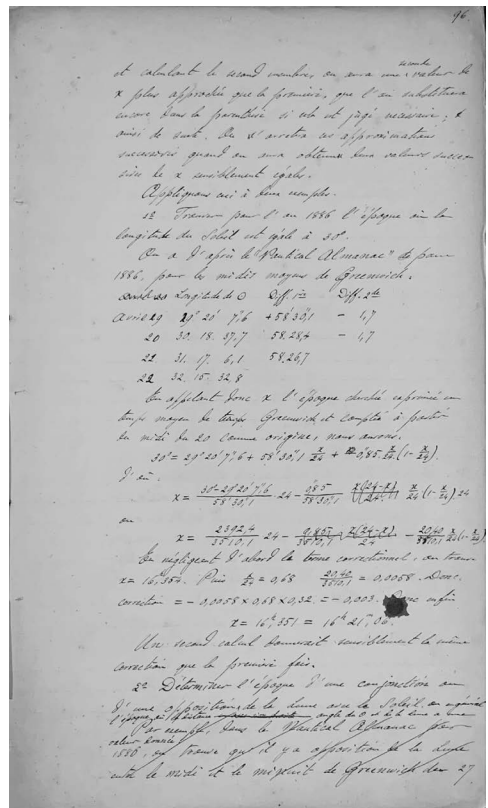


図6 28110の第2ページで右上に96とページ番号がある。

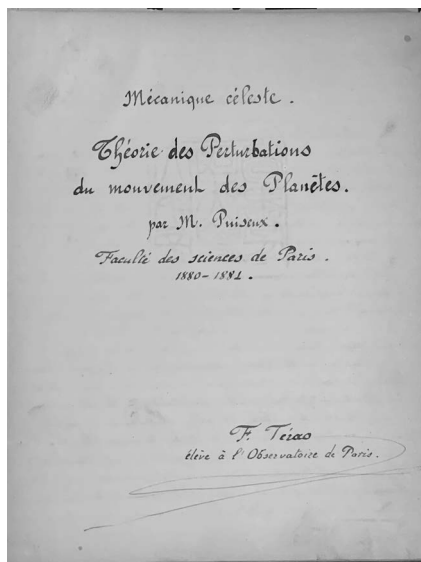


図7 28113の第1ページ.

28113は、A4大の86ページのノートである。最初のページに

Mécanique céleste
Théorie des Perturbations
du mouvement des Planètes. par M. Puiseux.
Faculté des sciences de Paris. 1880-1881.

数行空けて

F. Terao
élève à l'Observatoire de Paris

と書かれている(図7)。講義録かまたは論文の写しと思われる。

5. 寺尾と小倉金之助

余談ながら、寺尾と小倉金之助(1885-1962)の関係について触れておこう。小倉は1902年3月に東京物理学校(現・東京理科大学)に入学し、寺尾の算術と三角法の授業を受講している[7]。後年、小倉は数学教育と数学史について多数の論文・著作を発表し、寺尾が中等教育算術教科書を編纂していたことから、たびたび寺尾について書き記している。寺尾のノートが数学図書室に所蔵されていることは、小倉による戦時中の論文[1]の95ペー

ジで言及されている。論文の冒頭に書かれているように、この論文は、昭和15年(1940年)の10月30日から11月2日までの3日間大阪大学で6時間の講義を行い、その速記録から作成された。原文をそのまま引用すれば、「天文学の寺尾壽先生は、フランスのパリで、チッスラン(Tisserand)やベルトラン(Bertrand)などについて学ばれた。丁度、この(大阪帝大)理學部の圖書室に、パリ時代の寺尾先生の数学や力学の演習ノートが、藏されてゐます。先生は東京帝大で、力学や天文学の外に、楕圓函数、シータ函数を初めて講義されたと、聞いて居ります。」である。論文は戦後何度か改訂されて出版されているが、この言及があるのは初版だけのようである。このように、寺尾と小倉の間には関係があったが、それによって83冊の購入者が小倉であるとまでは言えない。今回、焼失したと思われてきた寺尾の資料が見つかったように、いつの日か83冊の購入の経緯についても判明する 때가くるかもしれない。

6. あとがき

大阪帝国大学理学部の校舎は戦前大阪市の中之島にあった。戦時中1944年に数学教室は、最初に滋賀県彦根市に疎開し、その後1945年に彦根市から近隣の豊郷村(現・豊郷町)に疎開している。疎開は、人命と数学図書を空襲から守るために行われ、教官、学生たちと共に数学図書も疎開先に移動した。戦後、理学部の校舎は中之島から豊中市待兼山町に移転し、現在に至っている。近年も建物の耐震工事改修により、数学図書の移動が行われた。このような戦中戦後の移動の中で、当初は60冊あった寺尾のノートも徐々に散逸していったと思われる。残された9冊のノートについては、今後、大阪大学学術情報庫(OUKA)[8]のコンテンツとして写真を公開する予定である。数学図書室所蔵の貴重書については、その一覧が所蔵稀観書目録として数学図書室ホームページに掲載されている[9]。

謝 辞

数学図書館は、内閣府の歴史資料等保有施設に指定されており、多数の貴重書を有しています。その目録作成作業の中で今回紹介した寺尾ノートが発見されました。目録作成に携わり、関係資料を検索し寺尾ノートと蔵書を一箇所にまとめてくださった数学図書館の佐々木美津恵さんと安江葉子さんに感謝申し上げます。北沢書店の北澤一郎氏には、戦前の記録の照会にご協力いただきました。中村士氏には、寺尾のイニシャルがフランス語の発音から F. Terao となっていることについてご教示いただくとともに、親子共に著名な天文学者であったピクトル アレクサンドル ピュイズー (Victor Alexandre Puiseux) とピエール アンリ ピュイズー (Pierre Henri Puiseux) について教えていただきました。また、大阪大学名誉教授の伊達悦朗氏には、理学部設立時と数学教室疎開時の状況について、氏がまとめられているメモから多くのことをご教示いただきました。ここにお礼申し上げます。

参 考 文 献

- [1] 小倉金之助, 1942, 明治時代の数学—日本に於ける近代数学の成立過程, 国民学術協會編 学術の日本 所収, 中央公論社
- [2] 中村士, 2003, 天文月報 96, 436
- [3] 芝哲夫, 1983, 塩見理化学研究所小史, 大阪大学史紀要 3
- [4] 1956, 大阪大学 25 年誌, 大阪大学
- [5] 板倉聖宣, 木村東作, 八木江里, 1973, 長岡半太郎伝, 藤岡由夫監修, 朝日新聞社
- [6] http://dbrec.nijl.ac.jp/CSDB_6485 (2023.1.20)
- [7] 小倉金之助, 1974, 数学者の回想, 小倉金之助著作集 第7巻 所収, 勁草書房
- [8] <https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/> (2023.1.20)
- [9] <http://www.math.sci.osaka-u.ac.jp/library/> (2023.1.20)

Hisashi Terao's Notebooks and Rare Books

Takao WATANABE and Satoko MUGURUMA

Department of Mathematics, Graduate School of Science, Osaka University, 1-1 Machikaneyama, Toyonaka, Osaka 560-0043, Japan

Abstract: The materials on Hisashi Terao, the first director of Tokyo Astronomical Observatory (now National Astronomical Observatory of Japan), are collected in the Terao Collection of the Mitaka Library of the National Astronomical Observatory of Japan and the Otonashi Collection of the Kyushu University Library, but the materials on mathematics and astronomy, Terao's specialty, were thought to have been destroyed in the Pacific War. In this article, we report on the primary materials on Terao's mathematics and astronomy that have been confirmed to exist in the rare book collection of the Mathematics Library, Graduate School of Science, Osaka University.